



福田人形店にも職人を志望する若者が入り、修理作業に精を出している。「伝統を引き継いでいきたい」と福田氏。

北海道から沖縄まで3500体以上の人形を修理

そ

の歴史は平安時代にまでさかのぼる京都の伝統工芸、京人形。雛人形や五月人形、市松人形など、その伝統は現代に受け継がれている。これらの高級人形はその精巧な作りゆえ、製造工程は頭、髪、手足、小道具、着付けなどに細かく分かれ、それぞれ熟練

の職人たちが担っている。

そんなそれぞれがその道のプロである職人たちを束ねて、人形修理職人ネットワーク「福田匠庵」を設立したが、福田人形店を経営し、自らも雛人形着付け師の福田眞一氏だ。

「地方で京の物産展を開いて、京人形の販売や製造実演を行ったら、お客様から『持っているお人形の髪が抜けた』、『顔が汚れた』、『何とか修理して使いたい』との要望が多く寄せられたのが、きっかけでした」

人形修理の窓口が少ないことに気が付いた福田氏は仲間の職人たちに呼びかけて2009年に職人集団を発足。ホームページを作成するなど、

窓口の態勢を整えた。

人形の顔のはがれた胡粉の塗り直し、欠落した髪への復元、虫食いのでれた提灯の袋の取り替えと紋の入れ直し……。修理の内容は多岐にわたるため、その都度、専門の職人に依頼。これまでに受けた修理は北海道から九州・沖縄まで3500体以上に上る。人形も京人形だけでなく、博多人形や西洋人形、インドネシアの伝統的な人形にまであるという。

「思い出の詰まった人形を、きれいに修理して返してあげた時のお客様の喜ぶ顔を見ると、やってよかったと思います。アフターケアの大切さを実感しています」



Shinichi Fukuda

福田 眞一

人形修理職人

ふくだ しんいち

1946年京都府生まれ。家業の福田人形店を継ぎ1989年に代表取締役役に就任。京人形商工業協同組合理事長、日本人形協会副会長などを歴任。2007年秋の褒章で黄綬褒章受章。2009年に人形修理職人ネットワーク「福田匠庵」を設立。

